



コスモスだより

【ニューストピックス】

リハビリテーション科

がんの リハビリテーション

【お知らせ】

新年のご挨拶 院長 吉原 治正

イベントレポート

第64回 市立貝塚病院 市民公開講座

第6回 泉州がん拠点病院

合同地区講演会（一般向け）のご案内

患者サロン『がん患者・家族懇話会』のご案内 ほか

《地域連携ニュース》

病診連携緩和セミナー（医療従事者向け）のご案内



病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

リハビリテーション科

がんのリハビリテーション

がんは、早期診断・早期治療など医療技術の進歩もあり、「不治の病」から「共存して生きる」という時代になってきました。「がんのリハビリテーション」は、がん患者さんの身体機能に目を向けることで、治療法選択・生命予後・ADL（日常生活動作）・生活の質（QOL）にも関わることから大変重要です。今回は「がんのリハビリテーション」について具体的な取り組みを紹介します。

■がんのリハビリテーションとは

■がんの療養における

リハビリテーションの目的

がんになると、がんそのものや治療に伴う後遺症や副作用などによって、患者さんはさまざまな身体的・心理的な障害を受けます。「がんのリハビリテーション」は、患者さんの回復力を高め、残っている能力を維持・向上させ、今までと変わらない生活を取り戻すことを支援し、患者さんのQOL（生活の質：クオリティ・オブ・ライフ）を大切にすることを目的に行われます。

■病状の進行のそれぞれの段階で

できる QOL 向上を考える

QOL は、どの医療現場にでも重要視されるポイントで、特にがんに限ったことではありません。リハビリの内容も、がんに限定した特別なことがあるわけではありません。ではなぜ「がん」が特化されるのか。それは、がんと診断された時から緩和期に至るまで、病状の進行状況にあわせたQOLのありかたを考え対応する必要があるからです。

■求められる、がんに対する専門知識

段階に合わせた適切なリハビリを行うために、その実施には、がん医療全般の知識だけでなく、運動麻痺、摂食・嚥下障害、浮腫、呼吸障害、精神心理などに対する高い専門知識が要求されます。

そのため、「がんのリハビリテーション」として実施するためには、専門職としてのリハビリの技術だけでなく、がんに対する更に上の専門性を身に付けるため、規定の研修を修了しなくてはなりません。当院でも、医師・看護師・リハビリスタッフが研修会を修了し、高い専門性のもと「がんのリハビリテーション」を行っています。

がんのリハビリテーションの病期別の目的

予防的

■ がんと診断

手術・抗がん剤治療・放射線治療開始前の早い時期に開始。機能障害の**予防**を目的とする。

回復的

■ 治療開始

機能障害や筋力・体力の低下がある患者さんに対して**最大限の機能回復**を図る。

維持的

■ 再発／転移

がんが増大し機能障害が進行しつつある患者さんに対し、**運動能力の維持・改善**を試みる。補助具の使用、動作のコツなどのセルフケア、関節の可動範囲が狭くなったり、抗拘縮や筋力が低下するなどの**廃用症候群の予防**も含む。

緩和的

■ 積極的治療が受けられなくなったとき

患者さんの要望を尊重しながら、身体的・精神的・社会的にも**QOLを高く保てるように援助**する。

リハビリテーションの対象となる障害の種類

【がんの病気そのものによる障害】

- 骨への転移による痛みや骨折
- 脊髄腫瘍による麻痺・髄腫瘍や転移による麻痺や排尿障害
- 腫瘍が末梢神経を巻き込んだしびれや筋力の低下

【がんの治療過程で生じる障害】

- 全身性の機能低下、廃用症候群
- 術後に生じる機能低下
- 放射・線療法・化学療法により生じる機能低下

周術期

手術後はできるだけ早くリハビリを

手術後は体が辛い時ですが、早い時期から体を動かすことが早期回復に・合併症予防につながります。

● 以前の考え方



● がんのリハビリテーションの考え方



更に進んで手術前からリハビリ開始

手術前から行う予防的リハビリは、合併症の発症率低下や回復力の速さに効果を発揮します。

【術前リハのメリット】

- 1) 必要な動作を事前に訓練しておくことで、術後必要になった時に上手にできる
- 2) 身体機能を高めておけば、合併症の軽減が期待できる
- 3) 術後の見通しを聞くことで、心構えができ不安を軽減
- 4) 術前からリハビリスタッフと面識があることで、術後のリハビリも安心してスムーズに進められる

術前 呼吸器リハビリ

肺炎や無気肺などの合併症予防

肺がんや胃がん、大腸がんなどで開胸・開腹手術を行うと、痛みや麻酔の影響で呼吸が浅くなります。そのため、痰がうまく出せず気管支内に痰がたまり、肺炎や無気肺を起こしやすくなります。痰を出すこと、ベッドからの離床を行うことで、合併症予防につながります。

【内容】

- 術前に腹式呼吸法を訓練し、呼吸が浅くなっても自分でしっかり痰を出せるように練習をする
- 痛みのある中で、どうやって体を起こしたり立ったりするかを練習する など

乳がんリハビリ

肩の動きの制限を予防・改善

手術により筋肉や脇の皮膚が縮んだことで、肩関節が突っ張ったり痛みを感じる場合があります。痛みのために腕を動かさないでいると、可動範囲が狭くなり、生活に支障をきたすことがあります。

【内容】

- 指先や肘から始まり、腕や肩を徐々に動かしながら可動範囲を広げ、痛みを軽減する

緩和期

「～したい」という希望に添う

「歩きたい」「トイレに行きたい」こうした希望をどうすればできるかを考え、少しずつでも実現させる。「祭りを見に行きたい」なら、どんな車椅子でどのように移乗するか、家と病院の往復の手段は……。リハビリの目的は、機能回復ではありません。日常生活が難しくなってきた、患者さんの「やりたい」をどう引き出し、満足感をどう上げていけるかを考えます。

日常生活をできる限り安楽に過ごす

がんによる痛みが出ると、身体に力が入り筋肉が緊張して、二次的な痛みが起きます。痛みのために姿勢が悪いと、呼吸にも影響し活動性も低下。寝たきり状態になってしまいます。リハビリにより、関節の可動域・筋肉の柔軟性を維持し、また痛みを起こしにくい動作方法の指導をすることで、少しでも楽に日常生活を行っていただきたいと考えます。

緩和ケア病棟にて

リハビリテーション科 技師長
理学療法士 山口 拓也

緩和ケア病棟で「座りたい」とご希望の患者さんがいらっしゃいました。何とかベッド上で座るようになり、今度は車椅子に乗ってデイルームに行けるようになりました。その姿を見た娘さんが、「だんだん弱っていく父の姿しか見られなかったけど、今外を眺めながら笑っている父を見られて嬉しい」と、涙ぐんで言われてんです。その数日後に、患者さんは亡くなりました。

できることがどんどんと限られてくる患者さんに対して、何をどうすることが正解なのか答えはありません。その中で、自分達に何ができるのか、緩和ケアチームのメンバーと共に考え、試行錯誤の毎日です。

「楽しみにしてる」「ありがとう」その言葉を糧に、患者さんご家族さんと一緒に頑張りたいと思います。



新年明けまして おめでとうございます

本年が皆様にとって輝かしい1年となりますよう
心よりお祈り申し上げます。



院長 吉原 治正

市立貝塚病院は平成 30 年で創立 79 年を迎えます。当地域で長年にわたり発展し続けることができたのも、ひとえに市民の皆さん、近隣医療機関の皆さん方のご協力、ご支援の賜物と深く感謝いたしております。

昨年における当院の歩みを振り返りますと、外来数部門及び売店の移転工事・駐車場の拡張工事が完了し、外来が充実し、動線も良くなり、駐車場の混雑は解消されました。さらに、老朽化した 1.5 テスラ MRI を最新鋭の 3 テスラ MRI に更新し、診療の効率・精度の向上が図られました。

新設の各センター（緩和ケア病棟、人工関節センター、消化器・肝臓センター）の運営は順調で、とりわけ、緩和ケア病棟は、専門の専従医も着任し、規模・質ともに貝塚市以南唯一の施設として成長しつつあります。また、内科では禁煙外来を開始し、眼科にて阪大眼科の西田教授、丸山准教授のご協力のもと硝子体手術を新たに開始しました。昨年 4 月には各科医師を増員し、診療の一層の強化を図りました。さらに、昨年 2 月には日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、最新 Version である 3rdG:Ver.1.1 の認定を受けました。今後とも全職員が病院の質改善の取り組みを継続してゆかなければなりません。

経営状況については、ここ数年安定した経営が続いています。さらに、昨年 3 月には「市立貝塚病院第 2 次改革プラン」を策定し、平成 29 年度～平成 32 年度に実行し、さらなる経営改革を推進していく予定であります。今回の改革プランでは「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」を新しい視点として取り上げました。当院は、急性期病床として今後ともその役割を果たしていく所存です。

本年の予定としては、耳鼻科外来の移転、エコー室の拡張を行います。また、手術室に周術期管理システムを新規に導入し、電子カルテともオンラインになります。4 月には数科で医師の増員が予定されており、とりわけ懸案となっていました麻酔科の医師も増員となります。さらにこれまで同様、地域医療連携室を中心に地域医療機関の皆さんとの交流を盛んにし、忌憚のないご意見、ご要望を当院の運営に反映させ、地域中核病院として一層進化していくことを希望しています。

以上のように、当院ではこれまで着実に環境の整備や職員の数、質の向上、および経営基盤の改善をはかり、市民の皆さんが求められる病院機能へと少しずつ近づきつつあると考えております。しかし、いつの時代も医療の基本は医療者の心であり、思いやりがあり、心の通った医療、患者様に寄り添う医療が最も重要です。今後とも、病院の理念である「地域住民を守る良質な医療の提供」を実行するため全職員一丸となって邁進する所存ですので、本年も変わらぬご協力、ご支援をお願い申し上げます。

イベント レポート



テレビ局の取材があり
朝日放送のニュースでは
「ブラックジャックセミナー」が
J:COM では「病院祭」が
放映されました



病院祭当日は天候にも恵まれ、たくさんの来場者にご参加いただきました。オープニングでは、「笑舞翔華」さんが庄巻の「よさこい」を披露。藤原貝塚市長も一緒に踊る場面もあり、華やかな幕開けとなりました。受付横では、「もちつき」を行い、ぜんざいにして来場者に配布。大変好評で、想定よりも早い配布終了となりました。模擬店では、焼きそばをはじめ、フランクフルト・焼き鳥など温かい食べ物が人気で、完売することができました。

院内では各診療科のパネルを展示。「禁煙相談」「乳がん自己検診」「救急蘇生講座」「視力低下・視野狭窄体験」の 4 つのコーナーには多くの来場者にご参加いただき、病気などへの関心を深めてもらえたことと思います。また、医療講演会では、若手医師 3 名が自身の経験や苦労話をふまえてユーモアたっぷりにお話され、楽しい講演となりました。

午後からは、1 階エントランスホールにてコンサートを開催。「貝塚市立第一中学校 合唱部」さんが、メンバー 1 人ひとりが存在感を示す動きのある合唱を、「アンサンブル BUNS とコントラバス」さんが、フルート・ピアノ・コントラバスによるぬくもりある生演奏を披露してくれました。病院祭の最後の催し「抽選会」では、特賞の折りたたみ自転車をはじめ、たくさんの豪華賞品を当選者にお持ち帰りいただきました。今回は、株式会社塚本さんより素敵なタオルのご寄附をいただき、病院祭応援賞として抽選会の商品とさせていただきます。

本年度の病院祭も盛大に実施することができ、ご来場の方々にも楽しんでいただけたことと思います。引き続き、より良い病院を目指し、また来年度も楽しい病院祭を催したいと思っております。

第21回 病院祭

平成 29 年 11 月 12 日 (日)



第5回 ブラックジャックセミナー

平成 29 年 11 月 12 日 (日)

地域の高校生を対象とする手術体験プログラム『ブラック・ジャックセミナー』は、医師不足・医療崩壊などが危惧される中、実際の医療現場や医療従事者と触れ合う機会を提供することで、一人でも多くの学生に医療に対する関心を持ってもらえれば……との思いで企画しました。

当院の外科・婦人科医師をはじめとする医療スタッフの指導のもと、実際の手術室を使用し、電気メスや超音波デバイスを用いた最新医療機器体験や、医療用の針と糸を使った縫合体験、モニターを見ながら鉗子でビーズを摘んで容器に入れる内視鏡トレーニング体験、術前の手洗いや清潔ガウン・手袋の着用などを体験します。また、体験セミナー後には、医師やたくさんの医療従事者との懇親会を開催し、学生たちの希望に満ち溢れた会話を聞きながら、医師たちは学生からのいろんな質問にも答えていました。

参加した高校生 23 名のアンケートでは、「将来のことを具体的に考えることができ、医者になりたいと思った」「いろんな話を聞くことができ、医療職に就きたいという気持ちが強くなった」「テレビで見たことがあったが、実際にやってみるとこんなに難しいとは思わなかった」など、多くの意見をいただきました。

第2回 大規模避難訓練

平成 29 年 10 月 21 日 (土)



大地震を想定した大規模災害訓練を実施しました。和歌山赤十字病院の益田医師、貝塚消防の協力のもと、多くの病院職員が参加し、指揮命令、安全確保、情報伝達、評価、トリアージ、治療、搬送訓練を行いました。

天候が悪くエリアの設置や情報伝達に戸惑ったり、治療開始、転送などのトリアージに難渋している場面もありましたが、第 1 回目の訓練時よりもアクションカード（緊急時のスタッフへの行動指標カード）が活用できていたと思います。感染対策や傷病者への声掛けはスムーズで、特に緑エリア（軽症群）、黒エリア（死亡群・待機群）は迅速かつ思慮のある設営でした。参加者全員が真剣に取り組み、役割に応じた訓練ができたと考えています。

災害時には、『最大多数の傷病者を救命する』ため、平時の救急医療とは大きく異なる医療の展開や体系的な対応が必要になります。市町村災害医療センターである当院は、必ず発生するといわれている南海トラフ地震などの災害時対応に、大きな役割を担っています。そのため、阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震など過去の災害を胸に、職種を超えた連携の強化と定期的な訓練が必要だと考えています。

■第64回 市立貝塚病院 市民公開講座のお知らせ

【テーマ】やってみよう 一次救命処置

動きやすい服装でご参加ください

平成 30 年
1月16日
(火)

【日 時】1月17日(火) 13:30～15:00

●手話通訳あり

【講 師】救急看護認定看護師 石谷 まゆみ / 看護局 BLS 委員会

【場 所】市立貝塚病院 7階講義室 【費 用】無料(定員 30 名 要予約)

【申込・お問い合わせ】地域医療連携室 ☎072-422-5865

※1階総合案内でも予約受付しております。

※FAXでも受け付けております。FAX:072-439-6061

お名前・連絡先・申込する講座テーマ・日程を記入し送信してください。



■第6回 泉州がん拠点病院 合同地区講演会(一般向け) 『知りたい!がん治療のトピックス』のご案内

泉州地域では、地域のがん診療拠点病院が協力し、市民の皆様へ安全で安心できる医療を提供するための「がん医療の推進活動」を行っています。今回は、『知りたい!がん治療のトピックス』をテーマに合同講演会を開催。多くの市民の方々の参加をお待ちしております。

講演1『乳がんの診断と治療』

講師:市立貝塚病院 副院長 乳がん高度検診・治験センター長 西 敏夫

講演2『胸の膨らみを取り戻す『乳房再建手術』』

講師:市立貝塚病院 形成外科部長 望月 祐一



平成 30 年
2月10日
(土)

【日 時】2月10日(土) 14:00～16:00

【場 所】市立貝塚病院 7階講義室 【費 用】無料(定員 70 名 要予約)

【申込・お問い合わせ】地域医療連携室 ☎072-422-5865

【主催・共催】泉州がん診療連携(ネットワーク)協議会 がん相談センター部会

■患者サロン『がん患者・家族懇話会』のご案内

患者サロンは、がんと診断されたご本人やご家族が、様々な悩みについて、毎回テーマを決めて語り合う交流の場です。質問があれば、申し込み時にお聞きして懇話会でお答えします。治療に関すること以外でもどんどんご質問ください。患者サロンを通じて、がんとうまく付き合い、不安を緩和し、よりよく過ごすきっかけを見つけてください。多くの方のご参加をお待ちしております。

●日程・内容等詳細はホームページでご確認ください 市立貝塚病院 患者サロン



検索

【テーマ】放射線療法の副作用について

【日 時】3月13日(火) 14:00～15:00

【場 所】市立貝塚病院 4階会議室 【費 用】無料(要予約)

【申込・お問い合わせ】地域医療連携室 ☎072-422-5865

※参加はがんの患者様かそのご家族様に限らせていただきます

※参加いただく方は、個人情報やプライバシーにご配慮をお願いいたします

※開催時間中の入退室は自由です

平成 30 年
3月13日
(火)

■1階にコンビニがオープン

平成 29 年 9 月より、当院 1 階にコンビニ(デイリーヤマザキ)がオープンしました。これまで 7 階にあったコンビニが 1 階に移り、使いやすくなったと好評です。店内には、軽食や飲料の他、入院時に必要な衛生材料なども品揃えしています。

【営業時間】平日/8:00～20:00

土・日・祝/8:00～17:00



■1階飲食コーナーのご案内

平成 29 年 10 月より、当院 1 階 ATM コーナーの向かいに飲食コーナーを設置しました。コンビニでお買い求めの品の飲食など、お気軽にご利用ください。

◎7階には、陽当たりが良く開放感のある「食堂」があります、こちらもご利用ください。

【食堂営業時間】10:00～17:00 土/15:00まで(日・祝休み)



■ホームページがスマートフォン対応になりました

スマートフォンから今までと同様にアクセスすると、スマートフォン用のレイアウトで表示され、見やすくなりました。外出先でも気軽にスマートフォンでご覧いただけます。



地域連携ニュース

■病診連携緩和セミナー(医療従事者向け)のご案内

医療従事者を対象とした「病診連携緩和セミナー」を下記の通り実施いたします。講演会終了後、軽食(サンドウィッチ)をご用意し、情報交換の時間も設けていますので、多忙とは存じますが、是非ご参加ください。

平成 30 年
2月8日
(木)

講演1『当院緩和ケア病棟での症状緩和について』18:00～18:40

講師:市立貝塚病院 内科副部長 緩和ケア専従医 川上 寛明

講演2『～あなたも患者も疲れてる～癌関連疲労について考える』18:40～20:00

講師:大阪市立大学病院医学研究科 泌尿器病態学 玉田 聡

【日 時】2月8日(木) 18:00～20:00

【場 所】市立貝塚病院 7階講義室 【費 用】無料(定員:40名)

【申 込】株式会社ツムラ堺営業所に、下記の内容をファックス 06-6441-4169 にて送信してください。

●セミナー名:「平成 30 年 2 月 8 日 病診連携緩和セミナー」

●参加者氏名 ●御施設名

【お問い合わせ】市立貝塚病院 地域医療連携室 ☎072-438-5522(担当:西野)

株式会社ツムラ堺営業所 ☎06-6441-4138(担当:西村)

【共 催】市立貝塚病院・泉佐野泉南医師会・貝塚医師会・株式会社ツムラ

生涯教育2単位